

別紙 3

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業
分担研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究

研究分担者 氏名：徳本寛人 所属機関：鹿児島大学整形外科 役職：助教

研究要旨 頰椎後縦靱帯骨化症の手術選択における頰椎伸展位 K-line の有効性

A. 研究目的

頰椎後縦靱帯骨化症に対する椎弓形成術において、頰椎伸展位における K-line が術後成績へ与える影響について検討した。

E-K-line (-)群 27%、 $p=0.03$)、E-K-line (-)群において K-line (+)群と比較して有意に低かった。

B. 研究方法

後1年以上観察可能であった62名を対象とした。K-line (-)患者を頰椎伸展位で K-line (+)に変化した E-K-line (+)群、変化しなかった E-K-line (-)群の2群に分け、K-line (+)群を加えた3群間で頰椎レントゲンでの可動域、JOA スコアを比較した。

D. 考察、

E-K-line (+)患者では、椎弓形成術後に良好な成績が期待できる。

E. 結論

E-K-line は頰椎 OPLL に対する手術選択の指標として有効である可能性がある。

(倫理面への配慮も記入)

インフォームドコンセントの実施と文書での同意の取得

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表

頰椎後縦靱帯骨化症の手術選択における頰椎伸展位 K-line の有効性

Journal of Spine Research 受理済、発行未

2. 学会発表

第50回西日本脊椎研究会 (2023)

C. 研究結果

頰椎伸展 ROM は3群間で有意差を認め、E-K-line (-)群において K-line (+)群、E-K-line (+)群と比較して有意に小さかった。JOA 改善率は3群間で有意差を認め (K-line (+)群 58%、E-K-line (+)群 50%、

頤椎後縦靱帯骨化症の手術選択における頤
椎伸展位 K-line の有効性

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし